

# 令和6年度学校評価（自己評価）後期結果

## (1) 学校の全体について

評価の対象	評価内容	評価の着眼点	A	B	C	D	点	改善点及び対策等	R6.7月
①学校の姿	学校の教育方針や情報などが、学校報などで保護者（地域）に分かりやすく伝えられているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校の指導方針がわかりやすいか。</li> <li>●学校の情報が、分かりやすく伝えられているか。</li> </ul>	人 12	4	0	0	94	・定期的なお便り以外にも、カウンセラー便り（アンバーサリー反応）や生徒指導便り（リップ、言葉遣い）など必要に応じて情報を発信することができている。	95
②児童・生徒の姿	学校生活において、児童・生徒は生き生きと活動しているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校行事において、協力し合って活動しているか。</li> <li>●休み時間や給食時、部活動中に生き生きと活動しているか。</li> </ul>	人 7	8	1	0	84	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いきいきと活動はしていたが、もう少し一年を通して計画的に目的をもって一つ一つの行事に取り組み、子どもたちをよりよく成長させていきたいです。今年がだめだったというわけではなくて、まだまだよくなる余地があると思って、ややいいえにさせていただきました。</li> <li>・休み時間は、寒い日でも元気に外で遊ぶ姿が見られる。</li> </ul>	86
③教職員の姿	教職員は、お互いに協力しながら児童・生徒の指導にあたっているか。また、来校者に誠実な対応をしているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●運動会や学校祭などの学校行事の際、協力し合って指導している場面が見られるか。</li> <li>●進んであいさつやことばかけをしているか。</li> </ul>	人 11	5	0	0	92	・問題等が生じた時には、すぐに関係職員を集め、チームで対応することができている。	95
④学校の環境整備	学校内外の環境整備が行き届いており、児童・生徒が快適で安全に学校生活が送れるようになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境美化に関する配慮が見られるか。</li> <li>●学校全体が、整理・整頓されているか。</li> <li>●学校全体の安全が確保されているか。</li> </ul>	人 4	11	1	0	80	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高い所のほこりやクモの巣の目立つときがある。普段の掃除の日で、先生方に協力してもらう日を設定してもよい。</li> <li>・どうしても児童トイレの使い方が気になります。いつ入ってもトイレトーパーが散乱していたり、流せていなかったりときれいとは言えないので、教職員も児童トイレを使用して、きれいな使い方がされているか確認が必要だと思います。</li> <li>・地震によって破損した箇所の修復が進まない状況にある。また、地震をはじめとする自然災害への備えとして、整備・作成しなければならないこと（課題）を、設置者の協力も得ながら一つずつ解決していきたい。</li> </ul>	77
⑤学力向上へ取り組む姿	基礎学力調査等を受けて、具体的な取り組みや指導法の改善が行われているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●結果分析を行っているか。</li> <li>●結果を生かし工夫改善をしているか。</li> </ul>	人 8	6	0	0	89	・学力調査等を分析し、改善に向けての取組提案はなされているが、実際の取組についてはやや課題が見られる。授業やスキルタイムの活用、家庭学習等、提案された取組については確実に取り組んでいきたい。	88
⑥働き方改革へ取り組む姿	多忙化解消に向けた働き方改革を進めているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●業務内容の精選等で、教材研究や児童と向き合う時間を確保しているか。</li> <li>●定時退庁日・最終退校時刻・会議終了時刻の設定等で、計画的な業務を進めているか。</li> </ul>	人 3	10	3	0	75	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんばっていますが、なかなか減りません…</li> <li>・児童と向き合う時間の確保はなかなか難しい状況の中でも、学年や学級にとらわれずに児童との関わりを持ってもらえたことに感謝している。</li> <li>・指導主事訪問以外の要請訪問は無くすべきだと思う。</li> </ul>	79

## (2) 授業の様子について

評価の対象	評価内容	評価の着眼点	A	B	C	D	点	改善点及び対策等	R6.7月
⑦児童・生徒の姿	児童・生徒が学習内容を理解しようと意欲を持って学んでいる様子が見られるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業中、教師の話や友達の発表をしっかりと聞いているか。</li> <li>●学習ルールが守られ、よい雰囲気で学習しているか。</li> </ul>	人 1	12	1	0	75	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちと意見を交わしながら、どういう授業、どういう学級にしていくな積み上げが必要だと思います。厳しくする指導するときには子どもたちにとってそれが意地悪にならないように、伝わる言葉で丁寧に子どもにこちらの思いや考えをつたえ、子どもの思いや考えを受け止め、指導していく必要があると思います。</li> <li>・学級間で差が見られているが、多様な取組や指導を進めながら、ワンチームとなって全校児童をよりよい姿に導いていきたい。</li> </ul>	71
⑧教職員の姿	児童・生徒が学習内容を理解できるようなわかりやすい授業であるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童・生徒一人一人に言葉かけをするなど適切な指導を工夫しているか。</li> <li>●授業内容が黒板にわかりやすくかかっているか。</li> </ul>	人 4	11	0	0	82	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「めざす授業の姿」を意識しながら授業実践を積み重ねていく。また、校内研修やミニ研修会によって実践をふり返る場を設定するとともに、子ども達との共有化を進める。</li> </ul>	81

### (3) 授業以外の様子について

評価の対象	評価内容	評価の着眼点	A	B	C	D	点	改善点及び対策等	R6.7月
⑨ 児童・生徒の姿	児童・生徒は、集団生活に必要なきまりや約束を守っているか。	●元氣よく挨拶ができているか。 ●登下校時には、正しい服装やきまりある行動をしているか。	人 0	14	2	0	72	・廊下を走る姿が見られる。 ・自ら考え判断し行動できるような子を育成するために、引き続き指導を進めていきたい。 ・あいさつのできない子が多い。	71
⑩ 教職員の姿	教職員は、児童・生徒の手本となる言動をしているか。	●児童・生徒に対し、正しい言葉づかいがされているか。 ●TPOに応じた服装をしているか。	人 8	8	0	0	88		88

### (4) 保護者・地域との連携について

評価の対象	評価内容	評価の着眼点	A	B	C	D	点	改善点及び対策等	R6.7月
⑪ 教職員と保護者との関係	教職員は、保護者や地域の方と連携をしながら関わっているか。	●学校は、地域の活動に協力的であるか。 ●教師と保護者の関係は良好か。	人 5	10	0	0	83	・保護者に対して速やかに連絡を取り、学校生活の状況を伝えている姿が見られている。 ・次年度のPTA役員決めが今年度から推薦方式になったが、1回の集まりでスムーズに決まり良かった。次年度は、それぞれの部会の人数が少なくなることを踏まえて取組を考えていかなければならない。	89
⑫ 教育活動の地域活用	学校は、地域の人材、施設、歴史、自然などを教育活動に活用しているか。	●学校は、地域の歴史、自然等を活用しているか。 ●学校は、地域の人材を活用しているか。	人 9	6	0	0	90	・それぞれの学年で積極的に地域人材を活用することができている。 ・地震の影響で活用が困難となった活動はあるが、クラブ活動に地域人材の活用が始まる等、教育活動への地域の人材活用が軌道に乗り、子ども達の豊かな学びにつながっていると感じる。	84

### (5) 独自の活動について

評価の対象	評価内容	評価の着眼点	A	B	C	D	点	改善点及び対策等	R6.7月
⑬ 読書活動の充実	読書環境の充実を図ること、児童の読書意欲に結びつけているか。	●読書環境の工夫が見られるか。 ●読書の定着は見られるか。	人 10	5	0	0	92	・図書室の環境整備をはじめ、様々な取組や啓発活動を通して、読書活動が推進されていることを強く感じる。 ・読書量は学年によってばらつきがある。担任の声かけがとても重要である。	96
⑭ 健康の保持増進	健康に対する実践的な能力と態度を育てているか。	●感染症拡大防止や健康課題の改善に向けた児童の意識が高まったか。 ●教師は、必要な精密検査や治療の勧告を継続に行っているか。	人 8	7	0	0	88	・残食量の多さが目立つ。残食調査の際には、事前の声かけや取組状況などを説明しているが、なかなか減らない現状にある。給食委員会の子どもたちとコラボして改善を目指したい。 ・給食の残量を見ると、児童に対して食に関する指導を進める必要がある。ただ、学校だけでは改善することは困難であり、保護者に対して状況を伝えたり、協力を依頼したりすることが欠かせない。	89